

# としよかんだより

公共図書館には、毎日さまざまな人が集まります。  
 本が好きな人、勉強をする人、調べものをする人…。  
 多くの人が集まるからこそ、葛飾区立図書館では  
 館内での過ごし方や資料の取り扱い方など、図書館でのマナーについて  
 みなさんと一緒に考えていきたいと思えます。

## 見直そう！図書館でのマナー

### 図書館の資料は大切に

図書館の資料はだれのものでしょうか？  
 自分ひとりのものではありません。みんなのもんです。  
 自分が読みたい本は、他の誰かも読みたい本です。  
 次の人のために、借りた本は期限内の返却をお願いします。

### 書き込みされた本



割れたCD

また、図書館の資料の中には貴重なものも多く、汚損・破損、あるいは紛失などしてしまうと、二度と手に入らない資料もあります。  
 借りた本は無くしたり汚したりしないよう、お気をつけください。  
 公共の財産として、図書館の資料はみんなで大切にしていましょ。

### 一人ひとりの思いやりが、快適な図書館をつくれます

「自分だけだから…」「ちょっとくらい…」

そんな気持ちでしてしまったこと、誰かの心を悩ませているかもしれません。

携帯電話・スマートフォンはマナーモードに。館内での通話はお控えください。



新聞・雑誌はご利用の方同士でゆずりあいながらの閲覧にご協力ください。最新号は一人1部ずつでお願いいたします。



### 館内での過ごし方

館内では静かに過ごしましょう。他の利用者のご迷惑にならないよう、お気をつけください。



### ゆずりあいの心を

長時間にわたって席を離れる場合は、荷物などでの座席確保はご遠慮ください。



### 図書館のルールも大切に

- 返却期限を守りましょう
- 資料の扱いは丁寧に
- 貸出手続きをお忘れなく

# 図書館の資料はみんなのものです お互いが気持ちよく利用できるようにしましょう



水濡れのため、利用できなくなっ  
てしまった資料

## 本の水濡れに注意!

図書館に返却される本の中には、まれに雨などに濡れたままの状態で返ってくるものがあります。  
それをそのまま放置すると、紙が水分で膨らんでしわになったり、色のついたシミができ、元には戻りません。  
図書館では、湿ったまま返却された本について、状態が軽いものは、すぐに処置をします。

## 水濡れ本 修理の流れ

### STEP1

まずは道具(タオル・白い紙・締め機)を用意します。



### STEP2

濡れたところの水分を拭き取ります。



### STEP3

白い紙を1ページ毎に挟みます。半乾きになるまで数回取り換えます。



### STEP4

半乾きになったら締め機で挟んで乾燥します。



### STEP5

この工程を経ても、元の状態に戻る本ばかりではなく、資料として利用できなくなってしまうものも多くあります。また、水濡れと言っても、雨の日の本の持ち運びやご利用中の飲食、水筒の中身漏れなど、様々なケースが考えられますので、ご注意ください。

水濡れのほかにも、切り抜き・書き込み・ページの角を折られた本など、汚損・破損の状態になって返却されるものもあります。汚損・破損の程度によっては、弁償をお願いすることもあります。



書き込みされた本

ページの角を折られた本



## マナーアップキャンペーン

葛飾区立図書館では、各図書館においてマナーアップキャンペーンを実施します。みなさんと共に図書館のマナーについて考えるキャンペーンです。ぜひ一度、ご来館ください。



鎌倉図書館での様子

# 図書館 HISTORY

憶えていますか？

## 葛飾図書館



葛飾図書館-現・立石図書館  
(昭和30年)



葛飾区教育センターの外観

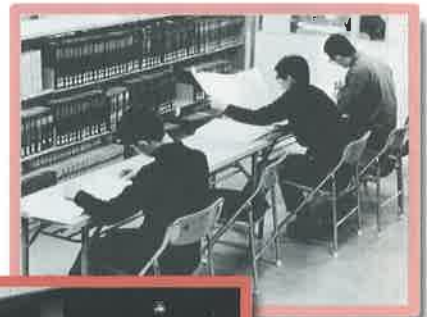
葛飾区最初の図書館である葛飾図書館は、昭和24(1949)年に、本田町17番地に開館しました。面積90㎡、蔵書3,000冊からのスタートでした。

昭和42(1967)年4月には、新宿三丁目の旧葛飾区役所新宿支所跡に新築された「葛飾区教育センター」内に葛飾図書館を移転しました。

(※立石1丁目にあった旧葛飾図書館は、立石図書館と改称。)

一階には児童室、学習室、新聞・雑誌コーナー、団体貸出室、二階には一般室と郷土資料室があり、天井が高く、明るい開放的な空間が広がる建物で、当時は珍しかった冷房も好評だったようです。

当初は利用者の94%が学生で、一般成人はわずか6%。広く一般住民に気軽に利用してもらうために、親子映画会やレコード・コンサートを開き、学生以外の利用者も徐々に増えていきました。



↑ 学習室の様子



← 親子映画会当日の光景



配本車での貸出サービス光景(昭和44年)

昭和44(1969)年6月には、「電話1本で本の出前！」をキャッチフレーズに、区内のすみずみにまで読書の機会を提供する配本車の活動が始まりました。区立図書館が2館しかない時代だったため、利用者にたいへん喜ばれました。

昭和62(1987)年に図書館コンピュータのオンラインシステムが稼働しました。同時に、23区で初めて利用者用端末も設置されました。それまでは、「○○という著者、××という本はありますか」という問い合わせがあると、図書館員は目録カードを調べに飛んでいったものです。

葛飾図書館は、ハンディキャップ用設備(対面朗読室、録音室)の設置、葛飾区コーナーや洋書コーナーなどの新設、「図書のリサイクル市」の開催など、さまざまな利用者サービスを展開してきましたが、平成21(2009)年10月の中央図書館開館にともない、区内図書館の中心としての役割を終えました。

現在、葛飾図書館の施設は新宿図書センターと名称変更し、地区図書館と区内所蔵資料の保存庫、区内の学校への支援コーナーとして引き続き活躍しています。



← オンラインシステム化以前の目録カード

リサイクル市の様子  
(平成8年) →



## お花茶屋図書館 常設展示のご案内

ひらくし でんちゅう

### 平櫛田中 と かつしか

文化勲章受章者であり、日本の彫刻界に偉大な足跡を残した平櫛田中氏(1872～1979年)。昭和14年にお花茶屋駅にほど近い本田宝木塚(現在の宝町2丁目)にアトリエを構え、数々の傑作を生み出し、代表作となる「鏡獅子」も同アトリエで制作されました。



昭和33年葛飾のアトリエで「鏡獅子」試作を再制作する平櫛田中氏  
写真提供 小平市平櫛田中彫刻美術館



平櫛氏の功績をたたえ、広く区民の皆さまにその魅力を伝えるため、お花茶屋図書館2階の郷土資料室に常設展示コーナー「平櫛田中とかつしか」を開設しました。当時の様子を伝えるアトリエの模型や解説パネル、書や写真、関連書籍等を展示していますので、ご来館の際はぜひお立ち寄りください。

※「鏡獅子」とは歌舞伎舞踊の「春興鏡獅子」の略称。モデルは六代目尾上菊五郎。木彫彩色、高さ232cm、昭和33年(1958年)86歳の作。現在は国立劇場のロビーで展示されています。

## ご存じですか？ 本の宅配サービス

足腰が弱くて長く歩けません。  
頼める家族もいません。

心臓病で  
外出できない。

介護施設に入院しているけれど、  
本が読みたい！

葛飾区立図書館ではさまざまな事情で来館できない方を対象に、図書館の資料を無料でご自宅までお届け・回収にうかがう『本の宅配サービス』を行っています。ご利用には事前の登録が必要です。ご希望の方は最寄りの図書館までご相談ください。



～利用できる方～

葛飾区内在住、あるいは区内介護施設などに入所されていて、心身の障がい・高齢・病気のため、来館ができない方。

※施設や病院への宅配を希望される場合、施設の協力が得られないとご利用になれないこともあります。



利用者の声

昨年までは妻が代理で予約の本を取りに行ってくれたのですが、体調がすぐれず頼めなくなりました。本の宅配サービスが利用できて助かっています。予約もパソコンからでき、新刊も頼めるので楽しみにしています。(柴又在住)

葛飾区立図書館報

「としゃかんだより」第83号

発行 平成27年9月(年2回)

発行者 葛飾区立中央図書館

葛飾区金町6-2-1

ヴィナシス金町プライトコート3階

電話 03-3607-9201